

## 万座毛遊歩道内で見られる植物

恩納村を代表する観光地である万座毛ですが、1972年には万座毛一帯に生えている植物が「万座毛石灰岩植物群落」として、沖縄県指定天然記念物に指定されています。

「象の鼻」などを構成する琉球石灰岩の表面は水分が少なく、絶えず海からの強い潮風が吹き付ける厳しい環境ですが、このような環境に耐えられる特殊な植物が多く生えています。今回はそんな万座毛に生える植物の中から、万座毛遊歩道内に自生している植物を紹介します。

### コウライシバ

琉球王国時代に尚敬王が「万人が座るに足る」と称賛した毛(原っぱ)を構成する大部分を占める植物です。コウライシバは海岸の潮風が当たるような崖地などに生える多年草で、硬い茎や砂や岩の上をつる状に長く地を這い、節から根を出し、枝分かれしながら広がります。



コウライシバ

### ハリツルマサキ

方言でマッコウといい、恩納ナビーのマッコウヤーという屋号もこの植物から来ています。

海岸で見られる半つる性の1~2mの高さになる常緑低木です。隆起サンゴ礁の琉球石灰岩上に生え、茎は地表を這うこともあり、若い枝には微細な突起が密にあります。花が咲く季節は8月~11月、実のなる季節は9月~12月です。



ハリツルマサキ

### ヤリテンツキ

海岸近くの原野に多く見られる多年生草本で、茎の先に穂のような花をつけている様子が槍に見立てられたことからヤリテンツキと名づけられました。



ヤリテンツキ

### ナハエボシグサ

海岸地域で多く見られる多年生草本で茎は根元で多数分岐して横に広がっていき、長さは30cmくらいになります。



ナハエボシグサ

### モンパノキ

海岸でよく見られる常緑低木の植物です。高さは2~10mになり幹は根元から枝分かれます。花が咲く季節は3月~8月で、日本(琉球列島)や東アフリカなどの熱帯・亜熱帯地域に分布します。

沖縄では糸満の漁師がミーカガン(水中眼鏡)を考案し、その幹が枠に利用されていました。



ミーカガン

モンパノキ

お問い合わせ: 恩納村博物館 ☎982-5112